

## 田んぼとお米の未来、丈夫な体の維持、同級会 (2015.6.1)

南の島の奄美大島は、梅雨入りしたようですね。

ご当地尾花沢はやっと田植えが終わり、農家の方々はゆっくりしているのではと思いましたが、かなりの農家でスイカを造っていることを考えると、「ゆっくりなんて、とんでもない」ということになりますか？



様々なところでカビが生えてくる季節です。

食べ物を供すると変化しやすいので、きちんと火を通したりして食べる様にしましょう。

また、同時に体の状態も良い状態にしておかなければ、いろいろの事を起こすきっかけとなります。

体が大丈夫であれば、少しぐらいの食べ物の傷みは、カバー出来るものですよ。



先月末に、名木沢の田んぼアート作成に参加しました。

大きな田んぼに、秋の実りの時期を思い浮かべながらの作業は、不安や期待が混じり合った複雑なものでした。

都会から派遣された若い実習生が一生懸命に頑張っている姿は、実に頼もしいものでした。秋が楽しみです。

良く考えてみれば、このような栽培は収穫を目指したもので無い訳でかなりの覚悟が必要で有ると思われます。



先日有名な酒米「山田錦」を使って、個人的に酒を造ってもらった方にお会いしました。

出来たお酒もご馳走になりましたが、すっきりしていて飲みやすいものでした。

農家に委託して栽培してもらったそうですが、コメの減反政策が多くなって休耕地が増えてきていることを考えれば、酒米や飼料米として栽培するのも折角の肥沃な田園を無駄にしないということに結びつくのではと思いました。

朝のランニング時に荒れた田んぼになった休耕地を目にするのはとってもつらいことですし、もったいないことだと感じるからです。



この1～2年は、同級会等の誘いが多くなりました。

やはり、その様な年齢に達したのだよと言われそうですが、「あの会に参加しておけばよかった」と後悔しない為にも、万難を排して参加しているこの頃です。

いづれにしても、動けるような状態を保っていなければ出来ない事です。

日々、体を動かして、`いざ鎌倉`に備えましょう。